

観音寺市内遺跡発掘調査概要報告書

平成8年度国庫補助事業報告書

# 久米東塚古墳

1997. 3

観音寺市教育委員会

## 例 言

1. 本書は、観音寺市教育委員会が平成8年度国庫補助事業として実施した、観音寺市内遺跡発掘調査の概要報告書である。
2. 今回の発掘調査は、母神山古墳群のうち久米東塚古墳を対象とした。
3. 発掘調査及び本書の執筆・編集は、観音寺市教育委員会生涯学習課文化振興係 主事 久保田昇三が担当した。また、出土遺物の整理、実測の一部は片桐節子が担当した。
4. 挿図の一部に国土地理院地形地図 観音寺(1/50,000)を使用した。図面の方位はすべて、磁針方位で示した。また、実測図の縮尺はすべてスケールで表示した。
5. 出土遺物及び図面は観音寺市郷土資料館で保管している。
6. 本事業の実施にあたっては、土地所有者の西山久司郎氏をはじめ、発掘調査に携わった坂田昇氏、西山秋久氏、牧野巧氏、宮武多喜雄氏、前川定彦氏、合田良一氏、三原護氏、篠原和男氏の協力を頂いた。記して謝意を表す。
7. 本書の執筆にあたっては、山崎啓司氏の助言・協力を得たので記して謝意を表す。

# 目 次

## 例言・目次

1. 調査に至る経緯と経過 .....	1
2. 立地と環境 .....	1
周辺遺跡地図 (1 / 50,000) .....	2
母神山古墳群分布図 .....	3
3. 調査概要 .....	4
地形測量図・トレンチ配置図 .....	6
久米塚古墳・久米東塚古墳周辺地形測量図 .....	7
石室全体実測図 .....	8
土層図 .....	9
出土遺物実測図 .....	10
4. まとめ .....	12
5. 写真 .....	13

## 1. 調査に至る経緯と経過

久米東塚古墳の所在する母神山の母神山古墳群は、大正10(1921)年に刊行された香川県三豊郡史によれば、江戸時代の天保年間の頃より盛んに発掘がされはじめていと記載されている。それ以前については具体的な資料がなく不明であるが、恐らく、その頃より母神山には多くの塚(古墳)があるとしたいに認識されはじめてと考えられる。

また、明治38(1905)年1月に発掘調査された事例がある。それは、香川県師範学校教諭の荻田元広氏によるもので、真鍋塚、久米塚、久保田塚のがその対象となった。その当時の様子は、財団法人鎌田共済会郷土博物館所蔵の荻田氏著の『讃岐史料雑之一』に記載されている。中でも、久米塚については特に詳細なスケッチ、略測図等が残されている。その資料の一つに久米塚周辺の古墳の分布状況を描いた絵図があるが、今回の調査対象の、現在、久米東塚のある場所については、ただ単にツカと表示され墳丘盛り土の一部が描かれているにすぎず、それ以上は具体的な記述はされていない。以後についても、久米東塚に関する発掘ならびにそれに関する文献や出土品等具体的な資料はないまま現在に至った。

なお、久米東塚の所在する場所も昭和30年代には開墾されしばらくの間樹園地として使用されていた経緯があるが、最近では廃園となっている状態であった。

今回、市教委では、同古墳の残存状況の確認や築造年代、規模、埋葬施設の構築状況等具体的な資料を得て、その遺跡の保存と活用を図るため発掘調査を実施するに至った。

## 2. 立地と環境

母神山は、香川県観音寺市内にあり同市の栗井町、池之尻町、木之郷町にまたがる位置に立地し、山全体が花崗岩より成り、周囲は約4kmある。また、同山は三豊平野(観音寺市・三豊郡)のほぼ中央部に位置し、三豊平野全域と瀬戸内海を一望することができる場所であり、山の南北には柞田川と財田川が西方に向かい瀬戸内海の燗灘に流れ込んでおり、周辺地域は水利的にも恵まれた場所である。現在は、山頂部がなくなっているが、記録では標高約92m程度であったようである。

また、母神山は6世紀代から7世紀代(古墳時代後期～終末期)にわたり県下でも屈指の古墳群が形成された場所でもある。母神山古墳群と呼ばれるこの古墳群は、かつては70基を越えて存在していたと推定される。代表的なものに、前方後円墳に周溝を有する鳳凰(ひさご)塚古墳【6c前半】、金銅製單鳳環頭大刀柄頭、三葉環頭柄頭、銀製冠立飾、金銅製馬鈴等が出土し複室構造の石室を持つ籬子(かんず)塚古墳【6c後半】、県下でも横穴式石室としては古手の部類の千尋(ちひろ)神社4号古墳【6c中葉】、一つの墳丘に二つの横穴式石室を異方向に配する上母神(かみはがみ)8号古墳【6c後半】などがある。

なお、母神山には古墳時代の他に弥生時代の壺棺等の遺物が出土しており、具体的な遺構の確認はされていないが、古墳群造営以前に弥生期の何らかの遺跡がかつて存在していたと思われる。

母神山古墳群のある地域周辺は、律令体制下の讃岐国刈田郡紀伊郷の郷域に比定されている。郷内には延喜式内社の栗井神社(栗井町)、於(うえの)神社(栗井町)の2社があり、郡内にはその他のものをあわせると計6社(黒島神社、山田神社、高屋神社、加麻良神社)が存在する。また、郡名、郷名にも深い関わりが想定される紀朝臣刈田首安雄(日本三代実録一貞観9年(867))で代表される刈田氏に関連する伝承がある乳若屋敷(栗井町)があることや母神山の麓にゴンゲ(郡家?)という地名が残されていることも非常に興味深い。また、紀伊郷に接する刈田郡柞田郷には南海道の柞田駅があり、刈田郡姫江郷(三豊郡大野原町)内には巨石を使用した大野原古墳群(椀貨塚、岩倉塚、平塚角塚等)がある。また、古代寺院には、母神山古墳群と大野原古墳群とのちょうど中間あたりの場所に紀伊庵寺(安井庵寺・青岡大寺)があり白鳳期の瓦の出土例がある。

# 周辺遺跡地図 (1 : 50,000)



- |                     |                      |                   |
|---------------------|----------------------|-------------------|
| 1. 室本遺跡             | 15. 一ノ谷遺跡群 (山の前南地区)  | 29. 乳若屋敷 (伝承地)    |
| 2. 丸山古墳             | 16. 石田遺跡             | 30. 藤の谷遺跡 (銅剣出土地) |
| 3. なつめの木貝塚          | 17. 向井・西の岡遺跡         | 31. 平岡1号古墳        |
| 4. 関呂寺1号古墳          | 18. 青塚古墳             | 32. 岩鍋遺跡          |
| 5. 鹿野鎌子塚古墳          | 19. 辻西遺跡 (銅矛出土地)     | 33. 桶塚古墳          |
| 6. 村黒遺跡             | 20. 長砂古遺跡            | 34. 角塚古墳          |
| 7. 樋ノ口遺跡            | 21. 久染遺跡             | 35. 平塚古墳          |
| 8. 古川遺跡 (銅鐔出土地)     | 22. 雛子塚古墳 (母神山古墳群)   | 36. 赤岡山古墳群        |
| 9. 石ノ経遺跡            | 23. 久米東塚古墳 (母神山古墳群)  | 37. 緑塚古墳群         |
| 10. 一ノ谷遺跡群 (平塚地区)   | 24. 柞田駅跡             | 38. 大塚古墳          |
| 11. 一ノ谷遺跡群 (香門地区)   | 25. 柞田八丁遺跡           | 39. 妙音寺           |
| 12. 一ノ谷遺跡群 (竹道北地区)  | 26. 小天千塚古墳           | 40. 延命古墳          |
| 13. 一ノ谷遺跡群 (竹道南地区)  | 27. 紀伊庵寺 (青岡大寺・安井庵寺) |                   |
| 14. 一ノ谷遺跡群 (山の前北地区) | 28. 上野古墳             |                   |

母神山古墳群分布図 (1997.3作成)

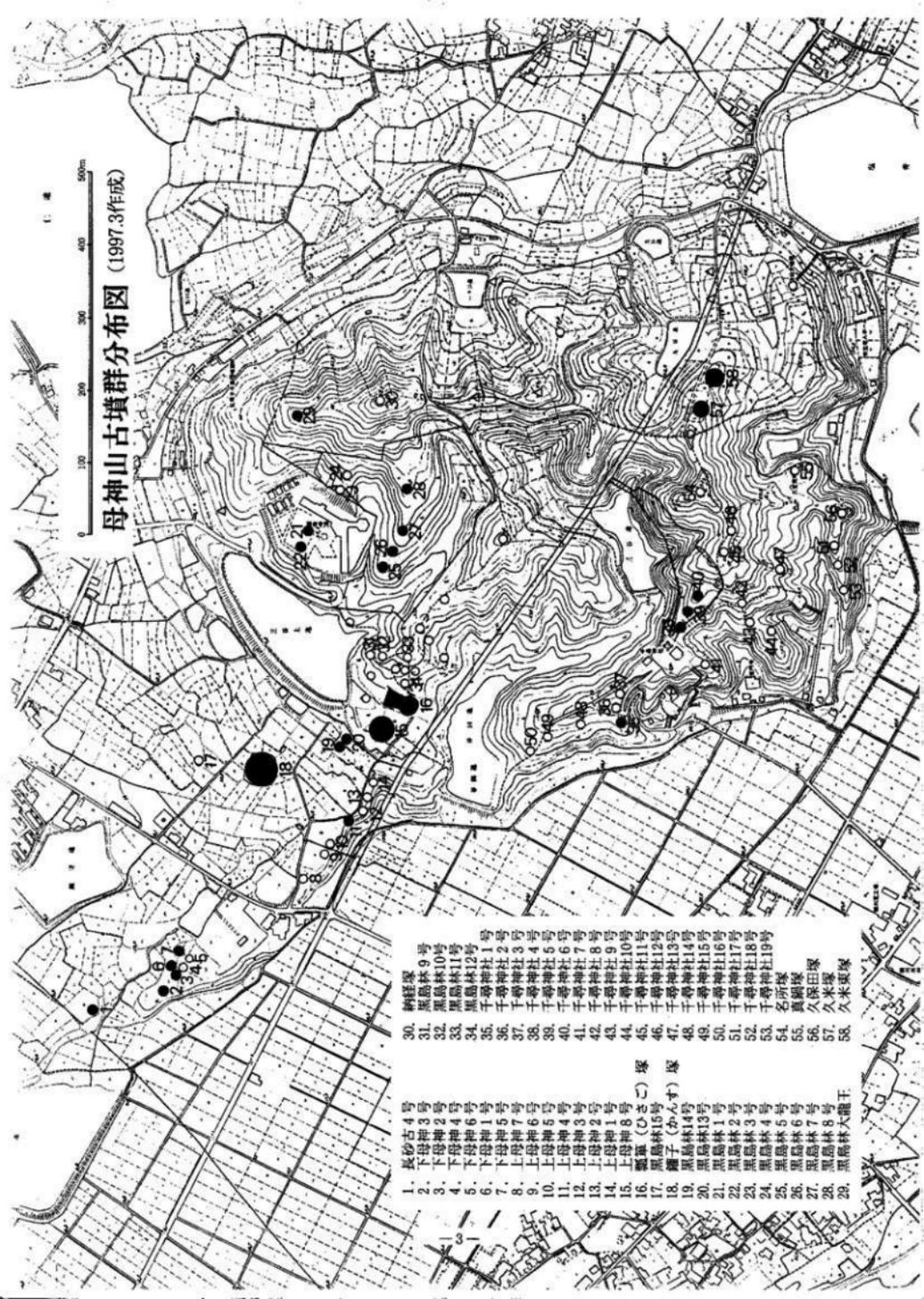
500m

400

300

200

100



30. 神庭塚  
 31. 黒島林9号  
 32. 黒島林10号  
 33. 黒島林12号  
 34. 下母神社1号  
 35. 下母神社2号  
 36. 下母神社3号  
 37. 下母神社4号  
 38. 下母神社5号  
 39. 下母神社6号  
 40. 下母神社7号  
 41. 下母神社8号  
 42. 下母神社9号  
 43. 下母神社10号  
 44. 下母神社11号  
 45. 下母神社13号  
 46. 下母神社14号  
 47. 下母神社15号  
 48. 下母神社16号  
 49. 下母神社17号  
 50. 下母神社18号  
 51. 下母神社19号  
 52. 名河塚  
 53. 眞鍋塚  
 54. 久保田塚  
 55. 久米塚  
 56. 久米塚  
 57. 久米塚  
 58. 久米塚

- 長砂古4号  
 1. 下母神3号  
 2. 下母神4号  
 3. 下母神6号  
 4. 下母神1号  
 5. 下母神5号  
 6. 下母神7号  
 7. 下母神8号  
 8. 下母神9号  
 9. 上母神4号  
 10. 上母神5号  
 11. 上母神6号  
 12. 上母神2号  
 13. 上母神1号  
 14. 上母神8号  
 15. 黒重(ひさ)塚  
 16. 黒重(ひさ)塚  
 17. 黒子(おんす)塚  
 18. 黒島林14号  
 19. 黒島林13号  
 20. 黒島林1号  
 21. 黒島林2号  
 22. 黒島林3号  
 23. 黒島林4号  
 24. 黒島林5号  
 25. 黒島林6号  
 26. 黒島林7号  
 27. 黒島林8号  
 28. 黒島林大龍王  
 29.

### 3. 調査概要

樹園地の廃園となっていた久米東塚の所在する場所は、調査前の段階では雑草等が繁殖し、所々に古墳の石室に使用されたと思われる石材が見受けられたが、墳丘についてはマウンドをある程度残しており遺跡の残存状況は比較的良好な状態が期待された。

まず、雑草等の除去・清掃作業を行い、その後、地形測量を実施した。なお、地形測量にあたっては平成7年度に調査を実施した久米塚と今回の久米東塚との位置関係がわかるよう久米塚から延びてくる尾根についてもその対象にした。(久米塚古墳・久米東塚古墳周辺地形測量図参照)

次に、石室の開口方向と石室の規模、残存状態、墳丘規模、墳形等を確認するためトレンチ調査を行った。以下がその概要である。(注：以下、左右は玄室奥壁を背にしての、左右とする。)

- トレンチ1 ・石室の確認のため以下トレンチ5まで設定した。
- ・羨道側壁、玄門立柱、玄室側壁を確認した。
- なお、左側の玄門立柱は途中から二つに折れている状況であった。
- トレンチ2 ・羨道側壁を確認した。
- なお、確認できたのは左側側壁のみであり、右側壁については一石を残し完全に失われている状態であった。
- ・また、左側壁の外側の土層の状況を同時に確認し、石室の掘り方の状況や墳丘の盛り土の状況を一部であるが確認した。
- トレンチ3 ・玄室の側壁を確認したが、そのほとんどは失われており基底石を残すのみであった。
- ・また、天井石と思われるもの(大きいもので全長約1.7m、幅約1.2m程度)が計5個石室内に落下しており床面を検出するには不可能な状況であった。
- トレンチ4 ・石室の奥壁を確認した。奥壁の右半分はいわゆる鏡石といわれる一枚石(厚さ30cm弱程度の板状の割石)を使用している。
- トレンチ5 ・羨道左側壁を確認した。トレンチ2と同様右側壁は確認できなかった。
- なお、石室入口付近で11点の須恵器(出土遺物実測図№2、5、6、9、10、19、20、21、22、24、29・写真№15参照)が完形品に近い形で少量の鉄器とともに出土した。
- トレンチ6 ・墳丘規模等の確認のため以下トレンチ9まで設定した。
- ・周溝と思われる溝(幅約1.5m)を確認した。
- トレンチ7 ・攪乱が激しくトレンチ6のような周溝は確認できなかった。
- トレンチ8 ・地山を掘削した掘割状の遺溝(深さ約90cm、幅約2.8m)を確認した。
- トレンチ9 ・トレンチ6のような周溝は確認されず攪乱を受けている状況であった。

次に、トレンチ1からトレンチ5の土層観察用の畦を撤去し石室全体の遺溝の検出作業を行った。(但し、床面については、先述のとおり天井石と思われるものが落下しているため検出作業は行わなかった。)以下がその概要である。

- 羨道部
- ・右側壁は玄門立柱に接する一石のみ残存している状況であり、その他のものはすべて失われている状態であった。
  - ・左側壁は比較的良好な状態がよく、その一部は失われているものの2段から4段程度の川原石を小口積みにした側壁の状況が確認された。
  - ・また、側壁の中に柱状の石を立てたものが見られた。一つは羨道の中央部に位置し、そのから側壁の平面プランがやや外反してゆく境界となっているものである。
  - もう一つは、石室の入口と思われる位置にあり、それを境として外側は小口積みをしなく

なるものである。

#### 玄門部

- 左右の玄門石はそれぞれ一石の玄門立柱で構成されている。
- 右の玄門立柱は比較的角のとれた川原石を使用しており、方柱状であるが丸みを帯びている。なお、玄門立柱の石室内側への突出度は約10cmである。
- 左の玄門立柱は先述のとおり途中から斜めに折れており羨道側に傾いている。割石を使用しているが、石室内側へはほとんど突出していない。
- なお、玄門の仕切石のところでの石室幅は、約80cm程度である。

#### 玄室部

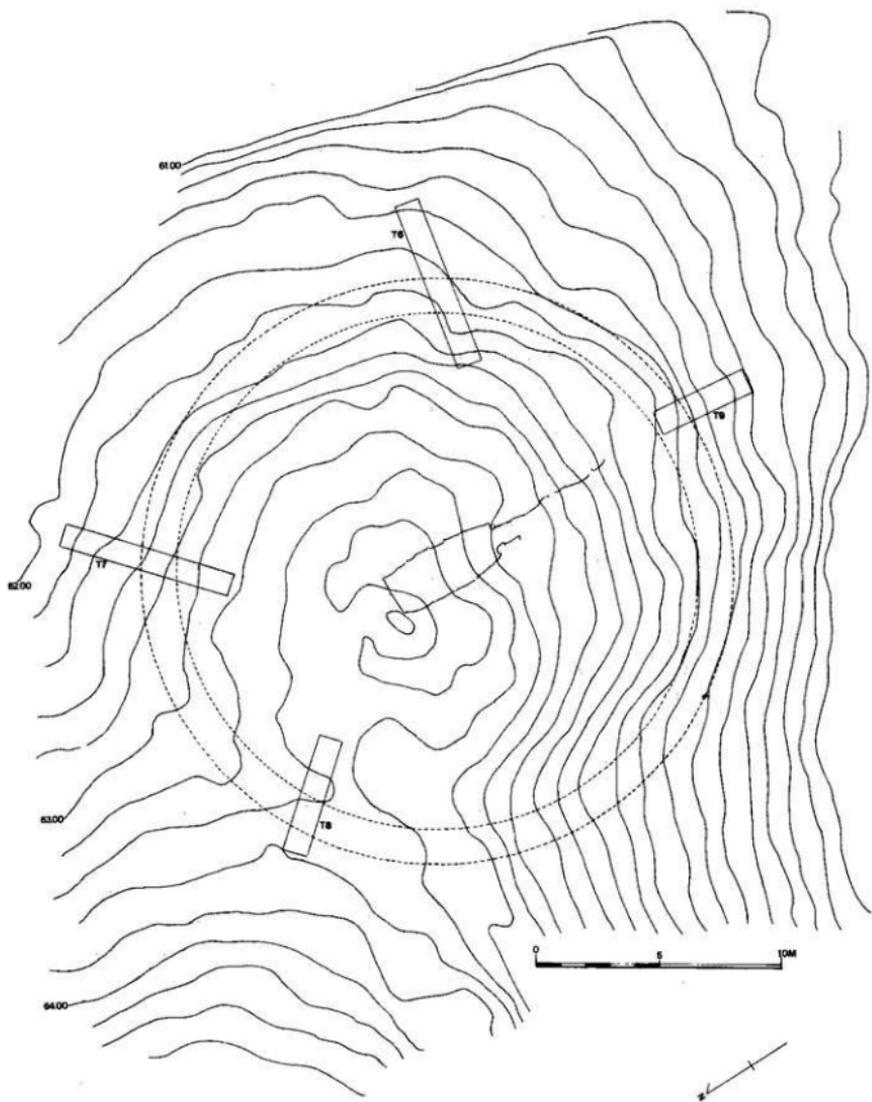
- 左側壁の基底石は6石で構成され、もっとも奥壁側にはひとまわり大きめのものを使用している。
- 右側壁の基底石は5石で構成され、やはり一番奥壁側の基底石については比較的大きめの石材が使用されている。なお、基底石の上に積まれた石は川原石を小口積みにしており、全体的には基底石を含め内側に傾きがあり持ち送り構造をとっている。
- 奥壁については、右半分を板状の一枚石を配し、左半分は基底石の上に小形の川原石を小口積みしている。
- 平面プランについては、玄室入口付近で幅約1.46m、玄室中央部で幅約2m、奥壁のところで幅約1.64mあり、玄室の長さについては約4.8mあり緩やかな胴張りの構造を呈している。

#### 出土遺物

- 今回の調査では、天井石が玄室内への落下していることにより石室の床面の検出を行っていないため、出土遺物は表面採集のものはごく少量であり、石室内の埋土内からと石室入口付近のものと各トレンチからの出土遺物のみに限られる。
- 石室埋土内からは須恵器片が少量であるが出土している。他には、床面近くからは銅製の耳環1点、鉄製の鐙とみられるもの1点が、出土している、また、右羨道側壁があったであろう地点からは紡錘車片1点が出土している。
- 石室入口付近からのものは、先述のとおりである。
- トレンチからの出土品については、そのほとんどが須恵器片であり、トレンチ6、9よりも出土している。

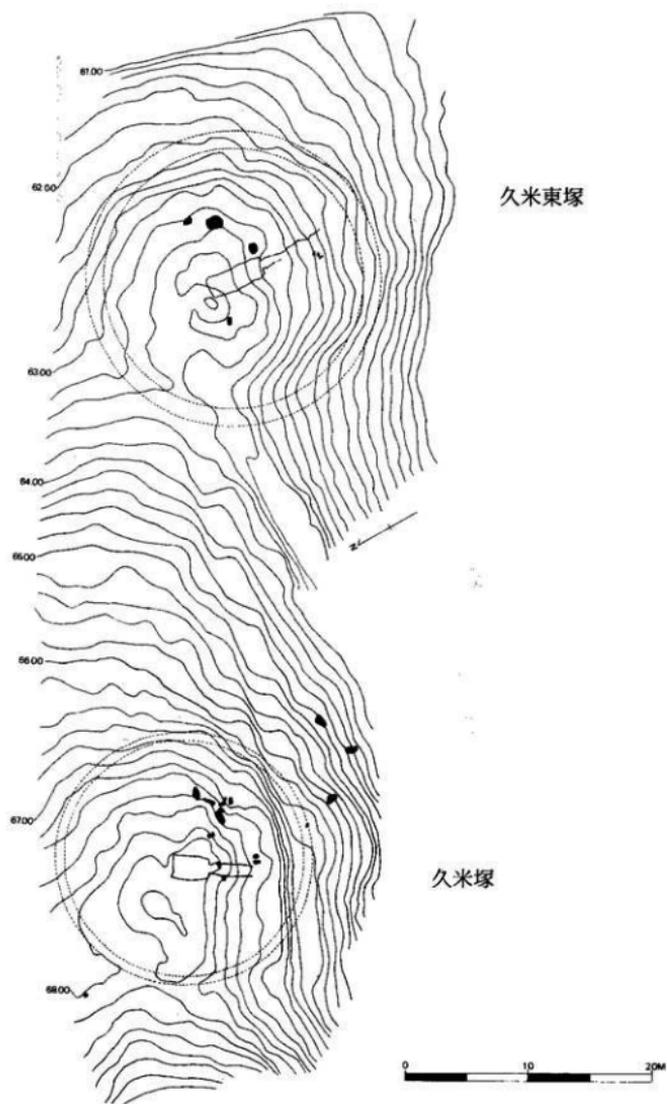
#### その他

- 石室の石材については、おもに和泉砂岩系の川原石を使用しているが、墳丘上に二石ではあるがそれ以外のものが見受けられる。それは、径5cm～10cm内外の川原石が混入する讃岐山脈を構成している和泉層の基底礫岩である。その形状からみると羨道の天井石に使用されたと思われるものであるが、これと同様な礫岩は、現在、市内では栗井町の岩鍋池の堤防付近に露出しているのが確認されており久米東塚から直線距離で南東方向に約1.8kmの場所にある。詳細な分析を待たねばならないが、この二つの礫岩はこの場所より搬入された可能性があると思われる。

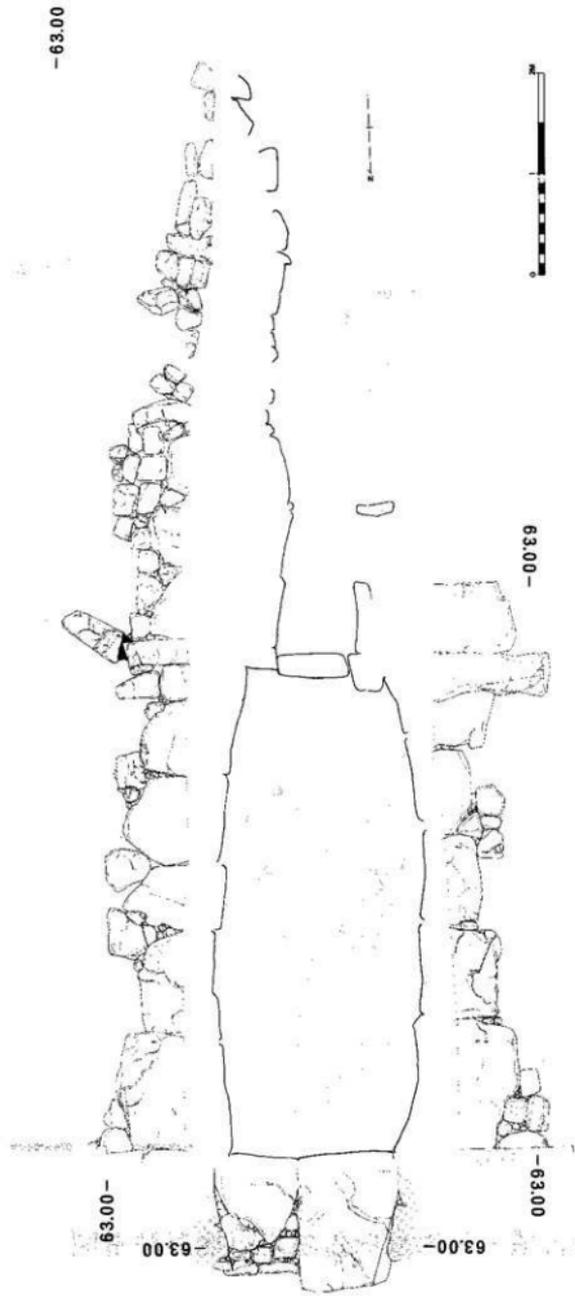


### 久米東塚古墳地形測量図

(墳丘推定範囲・周溝を含めた墓域推定圏を-----で示した。)

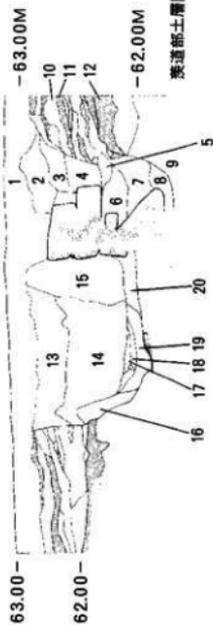


久米塚古墳・久米東塚古墳周辺地形測量図



久米東塚古墳石室全体実測図

# 土層図

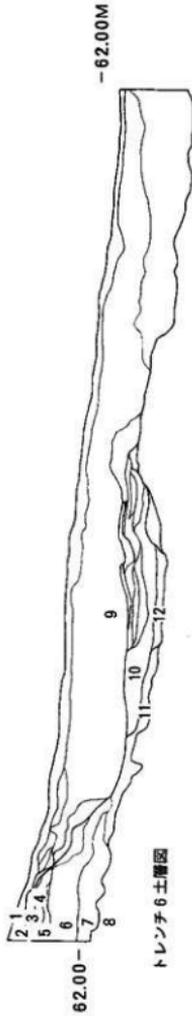


1. カクラン層
2. 暗灰茶褐色粘質土層
3. 灰茶褐色粘質土層
4. 灰赤褐色粘質土層
5. 暗黄灰褐色粘質土層
6. 暗赤褐色粘質土層
7. 暗黄赤褐色粘質土層
8. 黄赤褐色粘質土層
9. 地山層
10. 黄茶褐色粘質土層

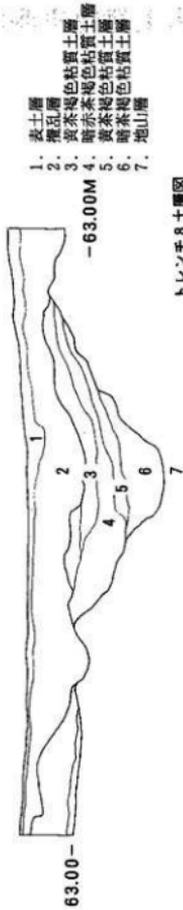
11. 黑灰褐色粘質土層
12. 暗黑灰褐色粘質土層
13. 灰赤褐色粘質土層
14. 赤褐色粘質土層
15. 暗茶褐色粘質土層
16. 暗黄灰茶褐色粘質土層
17. 黑黄灰褐色粘質土層
18. 黄灰褐色粘質土層
19. 暗黄灰褐色粘質土層
20. 黄茶褐色粘質土層

養道部土層図

1. 表土層
2. 黄赤褐色粘質土層
3. 黄赤褐色粘質土層
4. 黄赤褐色粘質土層
5. 黄褐色粘質土層
6. 暗黄赤褐色粘質土層
7. 明黄赤褐色粘質土層
8. 地山層
9. カクラン層
10. 黄茶褐色粘質土層
11. 暗黄褐色粘質土層
12. 明黑灰褐色粘質土層



トレンチ 6 土層図



1. 表土層
2. 暗赤褐色粘質土層
3. 黄赤褐色粘質土層
4. 暗赤褐色粘質土層
5. 黄赤褐色粘質土層
6. 暗赤褐色粘質土層
7. 地山層

トレンチ 8 土層図



# 出土遺物実測図(1)



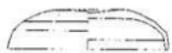
1



9



19



2



10



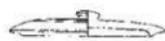
20



3



11



21



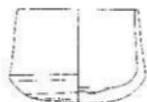
4



12



22

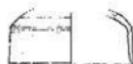


5



13

14



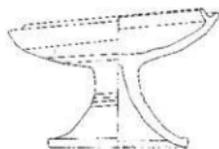
23



6



15



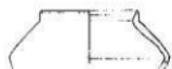
24



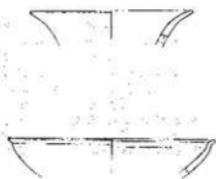
7



16



8

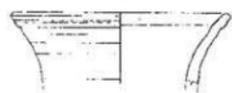


17

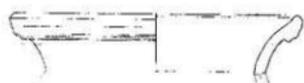


25

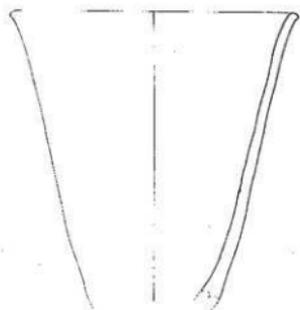
# 出土遺物実測図(2)



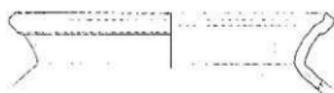
26



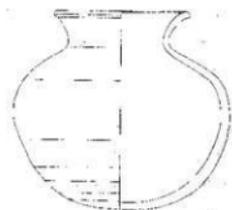
27



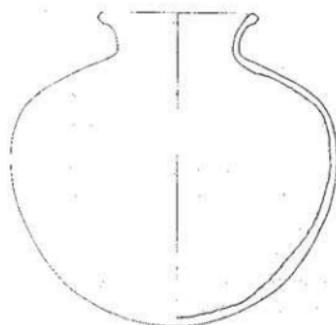
30



28



29



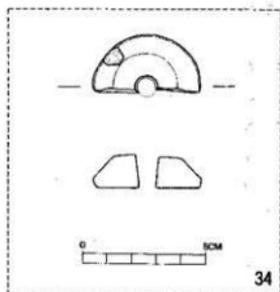
31



32



33



34

## 4. まとめ

調査前の観察及び地形測量を実施した段階では比較的良好な残存状況が期待されたが、今回の調査により残存状況が当初の予想より悪い状況が確認された。それには樹園地の開墾時によるものもあるが、それ以前からのものと判断される状況もみられた。また、地元古老の談によれば石室が開口していた時期があり石室内の遺物にも少なからず影響があったことも考えられる。

ここで、今回の調査により確認された概要を以下にまとめてみる。

墳丘規模は、トレンチ調査により直径約21mの円墳であり、周溝を含む墓域の範囲は約24mの規模と推定される。なお、周溝等は一部のトレンチでは擾乱が激しく確認できなかったが、トレンチ6、トレンチ8においてはその出土遺物とともに明瞭な土層が確認できたので前述の墳丘規模等の根拠となった。

埋葬施設は、両袖式の横穴式石室がS-1°-W方向に開口し、石室全長約9m、玄室長約4.8m、羨道長約4.2mの規模であり、母神山古墳群中確認されているものの中で第2位の規模である。本石室の特徴として、玄門立柱が石室内側に突出する構造をとっていること、玄室の平面プランはゆるやかな扇張りを呈することや羨道がその中央部の柱状の石を境界として平面プランが反転する構造をとっていることなどがあげられる。

また、本古墳の築造年代は、その石室入口付近等からの出土遺物により6世紀後半のものと推定されるが、詳細については、今後の再調査で天井石を取り除く機会を待ち判断すべきである。

最後に、参考資料として、久米東塚古墳と母神山古墳群内の主な古墳との比較を下表に記した。

	久米東塚	久米塚	鐘子塚	黒島林1号	上母神8号	千尋神社4号
墳形	円墳	円墳	円墳	円墳	円墳	円墳
墳丘直径	21	21	30	20	19	16
墓域直径	24	-	40	-	27	-
埋葬施設	横穴式	横穴式	横穴式	横穴式	横穴式	横穴式
袖形態	両袖式	両袖式	両袖式	両袖式	両袖式	両袖式
開口方位	S	SSW	S	SW	WNW	NE
石室全長	9	6	9.80	5.80	6.40	5.35
玄室長	4.80	3	5.60	3.60	3.40	3.80
玄室奥壁	1.64	1.80	2.55	1.80	1.60	1.60
玄室高	-	-	3.20	-	-	-
羨道長	4.20	3	1.20	2.20	3.00	1.80
羨道幅	0.80	0.88	1.45	1.35	0.60	0.75
玄門幅	0.80	0.62	1.25	1.00	0.60	-
墓道	-	有	有	-	-	-
排水溝	-	有	有	-	-	有
特記事項	-	-	複室構造	-	1墳2石室	-
築造時期	6c後半	6c後半	6c後半	6c末	6c後半	6c中葉
調査年度	平成8	平成7	昭和48	昭和41	平成7	昭和48

※(1)数値の単位はmである。

※(2)上母神8号古墳は、第1石室の数値を示した。

## 5. 写真

### 目 次

1. 三豊平野全景 (↓印は母神山) - 雲辺寺山頂より
2. 母神山遠景 (↓印は久米東塚) - 藤目山頂より
3. 調査前状況 (西側から)
4. 調査前状況 (南東側から)
5. 羨道部側壁外側付近の土層の状況
6. 石室全体の状況 (石室入口より奥壁を望む)
7. 玄室の状況 (玄室奥壁側より)
8. 玄室奥壁の状況
9. 玄門付近の状況
10. 羨道側壁の状況
11. トレンチ 6
12. トレンチ 7
13. トレンチ 8
14. トレンチ 9
15. 羨道部遺物出土状況
16. 玄室遺物出土状況 (耳環)
17. 出土遺物 (実測図 No.2)
18. 出土遺物 (実測図 No.9)
19. 出土遺物 (実測図 No.10)
20. 出土遺物 (実測図 No.19)
21. 出土遺物 (実測図 No.20)
22. 出土遺物 (実測図 No.21)
23. 出土遺物 (実測図 No.5)
24. 出土遺物 (実測図 No.6)
25. 出土遺物 (実測図 No.22)
26. 出土遺物 (実測図 No.24)
27. 出土遺物 (実測図 No.29)
28. 出土遺物 鉄器 (鏝)
29. 出土遺物 紡錘車 (実測図 No.34)
30. 出土遺物 耳環



1. 三豊平野全景（↓印は母神山）—雲辺寺山頂より



2. 母神山遠景（↓印は久米東塚）—藤目山頂より



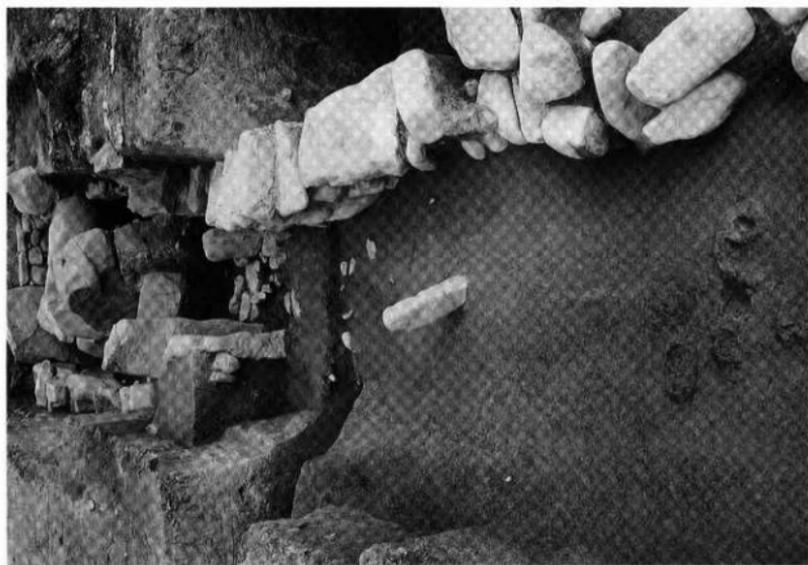
3. 調査前状況（西側から）



4. 調査前状況（南東側から）



5. 羨道部側壁外側付近の土層の状況



6. 石室全体の状況（石室入口より奥壁を望む）



7. 玄室の状況（玄室奥壁側より）



8. 玄室奥壁の状況



9. 玄門付近の状況



10. 羨道側壁の状況



11. トレンチ6



12. トレンチ7



13. トレンチ8



14. トレンチ 9



15. 羨道部遺物出土状況



16. 玄室遺物出土状況  
(耳環)

出土遺物(1)



17. (実測図 No.2)



18. (実測図 No.9)



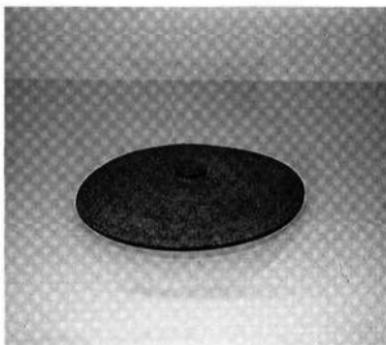
19. (実測図 No.10)



20. (実測図 No.19)

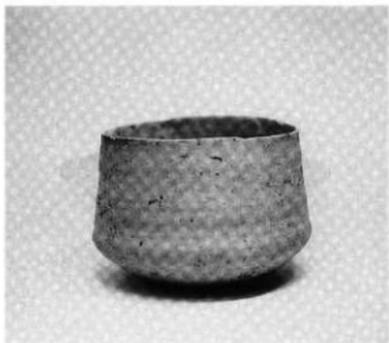


21. (実測図 No.20)



22. (実測図 No.21)

出土遺物(2)



23. (実測図 No.5)



24. (実測図 No.6)



25. (実測図 No.22)



26. (実測図 No.24)



27. (実測図 No.29)



28. 鉄器(鐔)

出土遺物(3)



29. 紡錘車 (実測図 No.34)



30. 耳環

[参考・引用文献]

- (1) 香川県『香川県史1 原始・古代』1988
- (2) 観音寺市『観音寺市誌』1985
- (3) 瀬戸内海歴史民俗資料館『瀬戸内海歴史民俗資料館紀要 第6号』1991
- (4) 香川県三豊郡役所『三豊郡史』1912……(株)名著出版1973復刻
- (5) 『讃岐史料雑之一』(株)鎌田共済会郷土博物館蔵
- (6) 黒島林古墳群発掘調査団『黒島林第5・6号墳調査報告』1977
- (7) 観音寺市教育委員会『母神山古墳群千尋支群第1・4・5・6号墳』1973
- (8) 大野原町教育委員会『角塚』1995
- (9) 文化庁文化財保護部『全国遺跡地図 香川県』1977
- (10) (株)鎌田共済会郷土博物館『資料目録』1986増訂再版
- (11) 観音寺市教育委員会『久米塚古墳』1996
- (12) 香川県教育委員会・(株)香川県埋蔵文化センター・日本道路公団『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第七冊 一ノ谷遺跡群』1990
- (13) 香川県教育委員会・日本道路公団『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第5冊 石田遺跡・長砂古遺跡・作田八丁遺跡』1988
- (14) 大野原町教育委員会『縁塚古墳群Ⅰ』1991
- (15) 財田町教育委員会『吉田古墳発掘調査報告書』1992
- (16) 田辺昭三『須恵器大成』1981
- (17) 中村浩『須恵器集成図録 第1巻 近畿編Ⅰ』1996
- (18) 中村浩・藤原学『須恵器集成図録 第2巻 近畿編Ⅱ』1996

## 報告書抄録

ふりがな	かんおんじないせいざつ(つち)うさがいようほくしよ							
書名	観音寺市内遺跡発掘調査概要報告書							
副書名	平成8年度国庫補助事業報告書 久米東塚古墳							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	久保田昇三							
編集機関	観音寺市教育委員会							
所在地	〒768 香川県観音寺市観音寺町甲334番地1 TEL 0875-23-3943							
発行年月日	西暦 1997年3月28日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 °'〃	東経 °'〃	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
くろがしづかこふん 久米東塚古墳	かごわけふ 香川県 かんおんじ 観音寺市 あかいちょう 栗井町 あざはがら 字母神	37205		34度 6分 3秒	133度 41分 50秒	19961029～ 19970303	54.7	観音寺市内 遺跡発掘調 査事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
久米東塚古墳	古墳	古墳	古墳 1基	須恵器 土師器 鉄器 紡錘車 耳環		70数基からなる母神山古墳群の 中の1基		

観音寺市内遺跡発掘調査概要報告書  
平成8年度国庫補助事業報告書

## 久米東塚古墳

1997（平成9）年3月28日発行

編集発行 観音寺市教育委員会  
香川県観音寺市観音寺町甲334番地1  
電話（0875）23-3943  
FAX（0875）23-3925

印刷 南有明高速印刷